

京都民医連共済会連絡会 2021年6月15日発行



連絡会 ニュース



発行 京都民医連共済会連絡会事務局

TEL 075-312-7900

Email : kmkyosai@kyoto-min-iren.org

共済会ホームページ <https://datanet.rdy.jp/kyosaikai/>



6・7月合併号

2021年度 京都民医連共済会連絡会通常総会

コロナ禍でも全ての会員が健康で働き続けられる職場づくりと共済運動の前進を



5月26日、「2021年度京都民医連共済会連絡会総会」を開きました。新型コロナウイルスへの感染拡大防止策として、定款に基づく3つの共済会がそれぞれ別会場にてリモートワーク開催形式で行いました。代議員46名のうち、39名が参加し（委任状7名）、各議案に対し、討論と採決を行いました。

はじめに、ご来賓の方よりご挨拶をしていただきました。京都民医連・松田貴弘事務局長は「入院が必要でも入院ができずに自宅療養を余儀なくされた結果、いのちを落としてしまうという痛ましい現実が起っています。五輪の強行開催に向けて医療従事者派遣を要請し海外選手へのワクチン接種を優先的にを行うことを表明するなど、どこの国の政府なのかと疑うような状況です。入院ができないのは医療機関が入院を受けないからと国民の分断をすすめる国の無為無策に対して私たちは真正面から立ち向かおう」と話されました。

京都民医労・中村暁副執行委員長は「コロナ禍の中、私たちエッセンシャルワーカーとしての社会的役割やその重要性がより一層明らかとなり、コロナの最前線



で働く医療介護労働者への感謝のメッセージも絶えません。こうした社会的共感を味方に

し、社会保障制度を改善する絶好のチャンスが今、目の前にあります。行動は全国で広がり、コロナの中、どさくさにまぎれ悪法が通されている中、市民と野党の結束が強くなり、一人ひとりが大切にされる社会にしたいと思う人たちがたくさん立ち上がっています。みんなの力で乗り越えていきましょう。」と話されました。

総会の祝電メッセージは、全日本民医連厚生事業協と大阪民医連共済会から頂きました。



南部和史・京都民医連共済会理事長は「2020年度の事業報告」「2020年度の決算報告」「2020年度の剰余金処分（案）」の提案を行いました。

南部理事長は「2020年度給付事業の特徴として、予算比前年比で一般給付の内容は、疾病見舞金が人数、件数ともに増加し、出産見舞金はほぼ横ばいとなりました。医療費は予算比で減少、前年比は1%程度増加しました。鑑賞観戦等補助は予算比前年度比で大幅に減少しました。2020年度企画は、コロナウイルス感染拡大により定年退職者予定者説明会を除き実施できませんでした」と特徴を述べました。

京都民医連共済会西七条厚生会班の福浦憲之監事は「2020年度監査報告」の報告をしました。

信和会共済会の山本太郎)常務理事は「2020年度事業計画（案）」「2020年度予算（案）」の提案を提案を行いました。（次ページへつづく）





参加代議員からの質疑意見は、2名の総代が発言をしました。内容は、「健康キャンペーンの実施」「共済会給付申請方法の共済会ホームページを利用した電子化」などでした。理事会からは「検討します」という

答弁がありました。

そのあと採択が行なわれ、全ての議案に対して全会一致で可決されました。

○2021年度6月掛金免除

2021年度掛金1ヶ月相当を2021年度6月掛金免除となりました。

○医療費、観戦鑑賞、慶弔金等は当月20日給付から、翌日20日へ変更（6月臨時号でもお知らせしました）

2015年度以降非常勤職員会員の増加以降、会員が増加傾向にあることや、コロナ禍での働き方の見直しに基づき、月初めの集中業務を分散させることを目的としてこの度の総会で、昨年度1年間をかけ、定款・事業規定の見直しと制度改定について論議を重ね、事業規定第28条を改定しました。

○2021年度日帰り旅行・文化企画について

コロナ感染拡大により文化厚生事業の企画実施の目的が立ちません。総会以降、常務理事会または理事会で企画実施の検討が可能な段階で提案いたします。

○役員選出について

役員（理事・監事）の選出選挙では、各推薦母体からの推薦の候補者全員が信任され、各共済会の役員が決定しました。



8月度 医療費見舞金 鑑賞・観戦等の補助について

●2021年7月受付・8月給付分
2021年1月～2020年6月分

<会員提出期日>

7月3日（土）

<給付金振込日>

8月20日（金）午後

小・中学校入学祝金について



2021年度の家族登録に基づいて、今年4月に小中学生としてご入学された子どもの入学祝金を7月20日に給付します。

保養所 使用再開について

新型コロナウイルス感染大防止のため、使用再開時期につきましては、京都民医連共済会連絡会合同理事会にて検討のうえ、共済会ホームページまたは「共済会連絡会ニュース」等にて発信いたします。会員の皆さんにおかれましては、ご理解ご協力をよろしくお願い致します。

2021年度京都民医連共済会連絡会通常総会議案書において誤りがありました。お詫び申し上げますと共に、下記のように訂正いたします。

2021年度議案書 訂正箇所

① II. 事業収入の特徴（P5額の訂正）

2. その他の収入支部活動援助金は135万円 → 全日本民医連厚生事業協支部交付金は⇒34万円

② IV. 財務の特徴（P5文書挿入）

1. 資産の部 貸付金残高が1,816万円減少しましたが、普通預金等の増額により全体では、2,003万円増加しました。

③ <第5号議案>（P7～P8文書挿入）

2021年度予算（案）<基本方向>

2021年度事業計画予算は、コロナ感染状況により昨年同様リクレーションなど企画実施の見通しが立たないため、感染予防を前提としたリクレーションと健康管理事業（健康キャンペーン）を除き文化厚生事業全体として昨年並みの予算で計上します。

④ II. 事業支出（P8文書挿入）

以下の内容で事業支出16,514万円を計上します。

1. 一般給付

4) 通勤災害見舞金につきましては、過去2年間の平均をもとに13万円（掛金比 0.1%）を計上します。

⑤ 3. 文化・厚生事業費（P8額の訂正）

2) リクレーション前年実績の θ ⇒128万円を計上します。

3) 健康管理事業は、前年実績の θ ⇒72万円を計上します。